

「英語教育改善のための英語力調査」及び「ケンブリッジ英語検定：B1 Preliminary」を利用した日本人英語学習者の英語力・技能別の特徴、及びテスト仕様がテスト結果に及ぼす影響に関する研究

白鳥金吾
Kingo SHIRATORI

目次

1. 研究の背景
2. 研究課題
3. 研究方法
4. テスト結果と考察
5. テスト仕様と考察
6. おわりに

[Abstract]

The use of a survey conducted by MEXT and Cambridge English Qualifications: B1 Preliminary for measuring Japanese learners' English ability and four language skills, and factors affecting the results

A national survey was conducted by MEXT in 2015. The survey describes the CEFR levels and some characteristics of four language skills of Japanese learners of English at the high school level. The results showed that third-year high school students' English proficiency is especially low on the more active, productive skills of speaking and writing. Meanwhile, the research conducted by the researcher through the use of Cambridge English Qualifications: B1 Preliminary showed that 35% and 75% of the junior college students were at B1 level in writing and speaking respectively, whereas almost 100% of students were below B1 in listening and reading. This research investigates how test specifications affected these results.

1. 研究の背景

1.1 CEFRを参照した「英語教育改善のための英語力調査」

文部科学省が実施している「英語教育改善のための英語力調査」は全国規模で行う国による初めての4技能テストであり、世界標準に基づいて日本の高校生全体の英語力を測定するため、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: ヨーロッパ言語共通参照枠) を参照し作成されている。

1.2 「英語教育改善のための英語力調査」の受験者とケンブリッジ英語検定：B1 Preliminaryを利用した本学科英語学習者のCEFRレベル

文部科学省が2015年に高等学校3年生を対象に実施した「英語教育改善のための英語力調査」では、「聞く」「読む」はCEFR A1上位からA2下位、「書く」「話す」はA1下位に集中し、特に発信型技能に課題が大きいことが示されている。

一方、B1 Preliminaryを使用した白鳥(2017)の調査では、本調査協力者のうち、「書く」「話す」については87%がB1、「聞く」「読む」は90%がA2という結果となり、受信型技能

キーワード：CEFR, 英語教育改善のための英語力調査, B1 Preliminary, テスト仕様

Key words : CEFR, A Survey Conducted by MEXT, B1 Preliminary, Test Specifications

よりも発信型技能が相対的に高く、国の調査と異なる結果となった。

1.3 各テストの目的と設計

「英語教育改善のための英語力調査」と B1 Preliminary は、目的と設計などテスト仕様において異なっている。

「英語教育改善のための英語力調査」は、学習指導要領及び高等学校での指導内容との関連を確認する到達度テストと、4 技能の到達状況を把握し課題を特定する診断テストの要素をあわせ持っている。また統合的な言語活動を充実するよう改善が図られた現行の学習指導要領 (2013) に照らし合わせて、「書く」「話す」においては、聞いたものを要約したり個人の経験や考えをもとに応答したりするなど、技能統合的なテストとなっている。

一方、B1 Preliminary は IELTS 等の大規模テストと同様に、特定のカリキュラムやシラバスを前提としない熟達度テストである。また主に各技能の個別的な要素に対する応答を要求している。

2. 研究課題

2.1 白鳥 (2017) の調査の課題

白鳥 (2017) の調査では、研究協力者のデータが 29 名と少ないことから本学科全体 (約 130 名) の英語力として一般化することが困難であり、また 2 年生の 6 月に実施したことから、学科での学習が調査結果に及ぼした影響が大きく、高等学校 3 年生を対象とした国の調査と比較することは妥当でないなどの課題があった。

さらに発信型技能が受信型技能よりも高いという白鳥 (2017) の調査結果については、両者のテスト仕様が異なっていることから、テスト構成等を比較・分析の上、要因を検証する必要があった。

2.2 全学生を対象とした B1 Preliminary の実施

本学科では、2015 年度から学科プロジェクトとして試行的に B1 Preliminary を実施しており、国際標準の英語力の測定や多様な英語力の把握が可能となった。

さらにテスト実施後の学生を対象としたアンケートでは「4 技能テストなので普段の学習の成果を知ることができる」など、テスト結果を英語学習の改善に生かすことができるといった意見が多く寄せられ、こうした結果を踏まえ、2017 年度から 1, 2 年次の前期に全学生を対象として B1 Preliminary を実施することとした。

2.3 研究課題

B1 Preliminary が全校実施となったことを受け、白鳥 (2017) の調査の課題に対応するため、本研究では、2 つのテストにおいて大きく異なる結果となった発信型技能に着目し、以下の課題を設定した。

- (1) 入学初期の段階における本学科の学生の CEFR レベルにどのような特徴が見られるか。
- (2) 国の調査と B1 Preliminary の「書く」「話す」のテスト仕様にどのような違いが見られるか。

3. 研究方法

調査協力者は北星学園大学短期大学部英文学科 1 年生 134 名である。そのうち、調査日に欠席もしくは調査に不備等のあった学生を除く 116 名のデータを使用した。調査実施日は 2017 年 6 月である。

研究課題 (2) については主に「平成 27 年度英語教育改善のための英語力調査事業報告書」及び「Cambridge English: Preliminary Handbook for teachers from 2016」を用いた。

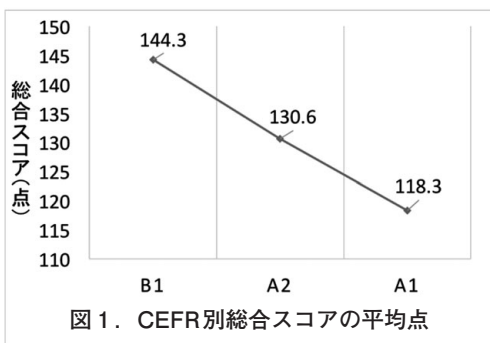
4. テスト結果と考察

4.1 調査協力者のCEFRレベル

4.1.1 総合スコアの状況

テスト結果はCambridge Englishスケールと呼ばれる80点から230点の1点刻みで示された4技能の各スコアと総合スコア、及びCEFRレベルで報告される。具体的にはB1が140点から160点、A2が120点から139点、A1が100点から119点となっている。B1 PreliminaryはB1レベルを対象としているが、総合スコアに応じてFAIL (A1相当)、A2, PASS (B1相当)、PASS Merit (B1上位)、PASS Distinction (B2相当)で報告される。

今回のPASS (B1) は116名中16名で合格率は14.0%であった。またA2が96名で全体の83%, FAIL (A1) が4名であり、各レベルの平均点は図1の通りとなった。



4.1.2 技能別の状況

図2, 3の通り、「書く」「話す」の平均点は各135.1点、144.5点で、全受験者のそれぞれ35%、75%がB1レベルであった。「聞く」「読む」はB1が各2%、0%で、平均点も各125.2点、122.6点とA2の下位となり、白鳥(2017)の調査と同様に、本学科入学時点においても発信型技能が受信型技能よりも高い結果となった。

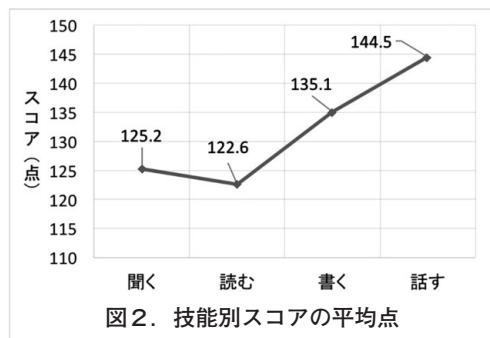


図2. 技能別スコアの平均点

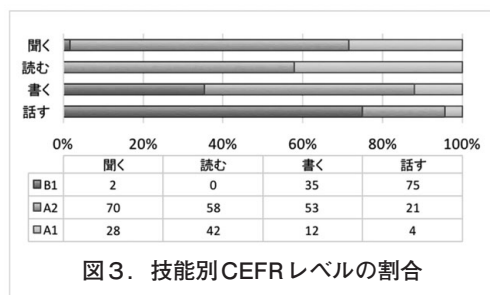


図3. 技能別CEFRレベルの割合

4.1.3 国の調査との比較

「平成27年度英語教育改善のための英語力調査」では図4の通り、「書く」「話す」のB1以上の受験者はそれぞれ1%、2%、A1がそれぞれ80%、87%であり、国の調査とB1 Preliminaryでは図5, 6, 7の通り、特に発信型技能に顕著な差が確認された。

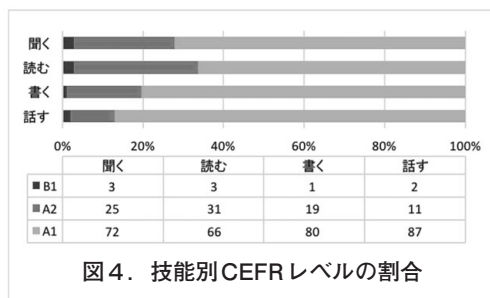
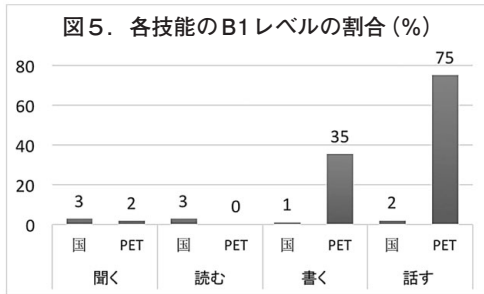
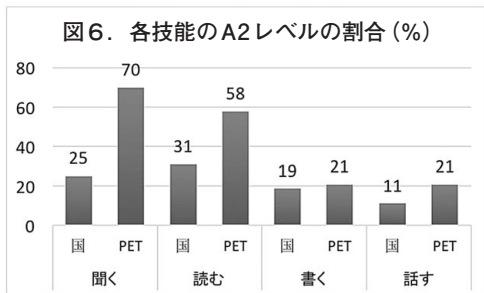


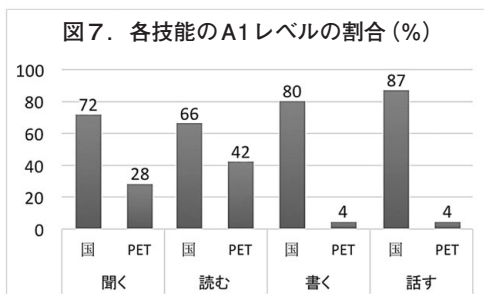
図4. 技能別CEFRレベルの割合



(注) PET : B1 Preliminary



(注) PET : B1 Preliminary



(注) PET : B1 Preliminary

5. テスト仕様と考察

2つのテストにおいて発信型技能に差が現れた要因について、各テストの仕様から分析する。

5.1 「書くこと」

5.1.1 英語教育改善のための英語力調査

本調査の問題構成、学習指導要領における領域・内容、及び各パートで問うている力は次の通りである。

【問題構成】

PART 1

a. TASK TYPE

意見展開問題

b. TASK FOCUS

与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力

c. CEFR Level

A2～B1相当

d. Sample Papers

あなたは授業中に、下記のテーマで英語のエッセーを提出することになりました。

〈エッセーのテーマ〉

最近、偏った食生活を送ったり、1日に3食をきちんと食べなかったりする若者が増えていると言われています。このような若者の食生活について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えとそう考える理由を書きなさい。

(Copyright ©2016 Benesse Corporation
「GTEC for STUDENTS」)

PART 2

a. TASK TYPE

情報要約問題

b. TASK FOCUS

ある事柄についての説明文を音声で聞き、聞いた情報を指定語数で要約する力

c. CEFR Level

B1～B2相当

d. Sample Papers

これから読まれる英文を聞き、その内容を30語程度の英語で要約しなさい。英文は2回読まれます。問題の途中でメモを取っても構いません。時間は4分です。

〈スクリプト〉

Many farms just sell one thing. But have you ever heard of a pizza farm? A pizza farm is a farm that grows everything that is needed to make

pizzas such as tomatoes and onions. Pizza farms also make cheese. It is easy and useful to be able to quickly buy everything that you need to make a pizza in one place.

But do you know an interesting thing about pizza farms? Pizza farms are in the shape of a pizza! If you look down on a pizza farm from a plane, you will see that the farm does not have four straight sides like a box, but is round like a pizza. And each field on the farm has only three sides, almost like a triangle. Each field is like a piece of the pizza. Something different grows in each field. Yes, it's amazing! Pizza farms are in the form of a pizza!

(Copyright © 2016 Benesse Corporation
「GTEC for STUDENTS」)

【学習指導要領における領域・内容】

- a. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書くことができる。
- b. つながりを示す語句（文と文、段落と段落の意味的・文法的つながりを示す語や表現）などを用いて、内容の要点を示す語句や文を含む文章を書くことができる。
- c. 事実と意見などを区別して書くことができる。

【各パートで問うている力】

PART 1

与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見とその理由を表現する力を測定する問題で、上記学習指導要領における a、b 及び c の力を見ている。

PART 2

ある事柄についての説明文を音声で聞き、その要点を書いて文章にまとめる力を測定する問題で、上記学習指導要領における a 及び b の力を見ている。

5.1.2 B1 Preliminary

【問題構成】

PART 1

a. TASK TYPE

Sentence transformations.

b. TASK FOCUS

Control and understanding of B1 level grammatical structures. Rephrasing and reformulating information.

c. Sample Papers

Here are some sentences about some new neighbours. For each question, complete the second sentence so that it means the same as the first. Use no more than three words. Write only the missing words on your answer sheet. You may use this page for any rough work.

1. I asked my new neighbours where they had lived before.

I asked my new neighbours, 'Where did …… before?'

2. They said their old house was quite near London.

They said their old house wasn't very …… London.

(問題 3, 4, 5, 省略)

PART 2

a. TASK TYPE

Short communicative message.

b. TASK FOCUS

A short piece of writing of 35–45 words focusing on communication on

three specific content points.

c. Sample Papers

You have lost some sunglasses which you borrowed from your English friend, Pat.

Write a note to Pat. In your note, you should

- ・ apologise to Pat
- ・ say how you lost the sunglasses
- ・ offer to buy Pat some new ones.

Write 35-45 words on your answer sheet.

PART 3

a. TASK TYPE

A longer piece of continuous writing.

b. TASK FOCUS

Writing about 100 words focusing on control and range of language.

c. Sample Papers

Write an answer to one of the questions (7 or 8) in this part. Write your answer in about 100 words on your answer sheet. Tick the box (Question 7 or Question 8) on your answer sheet to show which question you have answered.

Question 7

This is part of a letter you receive from an English friend.

My grandmother has given me some money. There's enough to buy a really good camera or go on holiday with my friends. My parents want me to save the money. What do you think I should do?

Now write a letter, giving your friend some advice.

Write your letter in about 100 words on your answer sheet.

Question 8

Your teacher has asked you to write a story.

This is the title for your story:

A lucky escape

Write your story in about 100 words on your answer sheet.

【CEFR B1レベルにおける「書くこと」の能力記述文（一部抜粋）】

OVERALL WRITTEN INTERACTION

- a. Can convey information and ideas on abstract as well as concrete topics, check information and ask about or explain problems with reasonable precision.
- b. Can write personal letters and notes asking for or conveying simple information of immediate relevance, getting across the point he/she feels so important.

OVERALL WRITTEN PRODUCTION

Can write straightforward connected texts on a range of familiar subjects within his/her field of interest, by linking a series of shorter discrete elements into a linear sequence.

5.1.3 考 察

はじめに国の調査について報告書をもとに考察する。PART 1の「与えられたテーマに関する自分の意見を適切に書く」ことができている生徒はA1レベルでは約23.9%で、自分の意見や理由を適切に書くことに課題があるとしている。質問紙調査では「英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりしていたと思いますか」に対し、「そう思う」又は「どちらかといえば、そう思う」と回答したA1レベルの生徒は38.6%であった。

PART 2は聞いた内容を要約する技能統

合型の問題である。A1レベルの生徒のうち、1つ目の要点を押さえられた割合が約5%、2つ目の要点を押さえられた割合が1%以下という結果であり、「聞くこと自体に課題があった」と報告書で指摘している。質問紙調査では「英語を聞いて、概要や要点をとらえる活動をしていましたか」に対し、「そう思う」又は「どちらかといえば、そう思う」と回答したA1レベルの生徒が57.7%であった。

「書くこと」の調査結果全体に占めるA1の割合が80.4%であることを考えると、相当数の生徒が、調査で測定される能力に対応した言語活動を十分に経験していない状況で、本調査を受験したことになる。

一方、B1 PreliminaryのPART 1のSentence transformationsは、高等学校の定期テスト等では頻出の形式であり、またPART 2のcommunicative messageは目的に応じて簡潔に書く問題であり「英語表現Ⅰ」などで取り扱われる高校初期の段階の内容である。PART 3の手紙や電子メールのやりとりも教科書でよく取り扱われる場面設定である。このようにB1 Preliminaryの各パートは生徒にとって馴染みのある言語活動であり、テストで測定される知識と技能が学習者の知識と技能に近いものであったと推察される。

次に、難易度について考察する。国の報告書では、PART 1はCEFR A2～B1レベル相当としている。設問の指示文は「自分自身の考えや具体的な経験に基づいて、自由に書きなさい」であり、設定したCEFRレベルと考えられるが、「若者の食生活について、あなたはどのように思いますか」のテーマは社会性のある題材であるとともに、タスクの意見及び理由の陳述はCEFR B2の記述文にある‘Can write an essay or report which develops an argument, giving reasons in support of or against a particular point of view and explaining the advantages and

disadvantages of various options.’のレベルを含んだ難易度の高い問題である。「書く」の無回答者及び0点が受験者全体の18.1%であることを考慮すると難易度はかなり高いと考えられる。

石川他（2011）は「受験者のおよその能力が予めわかっている場合には、それに合わせたテストを受験することが適切である」と指摘しており、本調査がフィージビリティ調査として実施されたことを踏まえても、CEFR B1レベルを対象としたB1 Preliminaryの方が、テスト結果の明示性が高いと言える。

5.2 「話すこと」

5.2.1 英語教育改善のための英語力調査

【問題構成】

PART A

a. TASK TYPE

音読問題

b. TASK FOCUS

適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話す力

c. CEFR Level

A1相当

d. Sample Papers

Some air pollution has natural causes, like wind storms and volcanoes, but most is the result of human activity. A blanket of dirty air covers most cities of the world. It mainly comes from cars and trucks and from factories that burn coal. The polluted air makes people sick, and it's especially bad for young children and aged people. Is this why countries are making rules to reduce air pollution?

(Copyright © 2016 Benesse Corporation
「GTEC for STUDENTS」)

PART B

a. TASK TYPE

質疑応答問題

b. TASK FOCUS

試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力

c. CEFR Level

A1～B1相当

d. Sample Paper

Now, I'm going to ask you some questions. Are you ready? OK, let's begin.

Question No.1: According to the passage in Part A, what causes most air pollution?

Question No.2: What do you like to do in places with clean air, (pause) in the countryside, for example?

Question No.3: What is the most interesting city you have ever visited or heard of? Tell me about the city.

Question No.4: Which city do you want to visit in the future, and why?

(Copyright © 2016 Benesse Corporation
「GTEC for STUDENTS」)

PART C

a. TASK TYPE

意見陳述問題

b. TASK FOCUS

与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力

c. CEFR Level

A2～B1相当

d. Sample Papers

Here is a statement: Teacher should speak only English in English class. Do you agree or disagree with this statement? You will have one minute

to prepare. Then, you will have two minutes to speak.

(Copyright © 2016 Benesse Corporation
「GTEC for STUDENTS」)

【学習指導要領における領域・内容】

- a. 適切な発音, リズム, イントネーション, 速度, 声の大きさを英語を話すことができる。
- b. 聞いたり読んだりしたこと, 学んだことや経験したことに基づき, 情報や考えなどについて, 話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。
- c. 事実と意見などを区別して話すことができる。

【各パートで問うている力】

Part A

与えられた英文を30秒間黙読した後に音読し, 単語を正しく発音できているか, 意味のまとまりを理解して音読できているかを測定する問題で, 上記学習指導要領におけるa.の力を見ている。

Part B

試験官からの質問に対して, 個人の経験や考えをもとに, 即座にかつ適切に応答する力を測定する問題で, 上記学習指導要領におけるb.の力を見ている。

Part C

与えられた社会的な話題に対して, 個人の考えや経験に基づいて意見を述べる力を測定する問題で, 上記学習指導要領におけるc.の力を見ている。

5.2.2 B1 Preliminary

【問題構成】

PART 1

a. TASK TYPE

Short exchanges with the interlocutor.

b. TASK FOCUS

Giving factual or personal information.

c. Sample Papers

- Now, what's your surname?
- Do you think that English will be useful for you in the future?
- What do you enjoy doing in your free time?

PART 2

a. TASK TYPE

Simulated situation. Candidates interact with each other.

b. TASK FOCUS

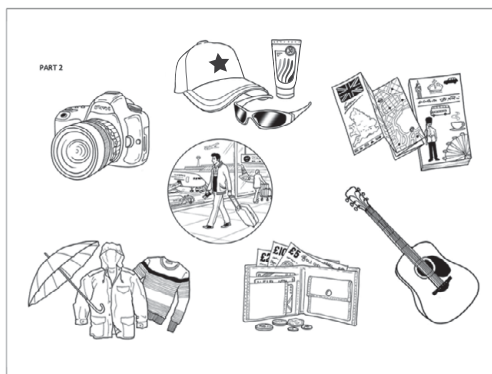
Using functional language to make and respond to suggestions, discuss alternatives, make recommendations and negotiate agreement.

c. Sample Papers

I'm going to describe a situation to you.

A young man is going to visit a city for the weekend, but he doesn't enjoy sightseeing. Talk together about the different things he could do in the city and say which would be most fun for him.

Here is a picture with some ideas to help you.



PART 3

a. TASK TYPE

Extended turn.

b. TASK FOCUS

Describing photographs and managing discourse, using appropriate vocabulary, in a longer turn.

c. Sample Papers

Now, I'd like each of you to talk on your own about something. I'm going to give each of you a photograph of people doing things at home.

Candidate A, here is your photograph. Please show it to Candidate B, but I'd like you to talk about it. Candidate B, you just listen. I'll give you your photograph in a moment.

Candidate A, please tell us what you can see in the photograph.



PART 4

a. TASK TYPE

General conversation.

b. TASK FOCUS

The candidates talk together about their opinions, likes/dislikes, preferences, experiences, habits, etc.

c. Sample Papers

Your photographs showed people reading and writing. Now, I'd like you to talk together about the different kinds of reading and writing you did when you were younger, and the kinds you do now.

【CEFR B1レベルにおける「書くこと」の
能力記述文 (一部抜粋)】

OVERALL SPOKEN PRODUCTION

- a. Can reasonably fluently sustain a straightforward description of one of a variety of subjects within his/her field of interest, presenting it as a linear sequence of points.

【OVERALL SPOKEN INTERACTION】

- a. Can communicate with some confidence on familiar routine and non-routine matters related to his/her interests and professional field. Can exchange, check and confirm information, deal with less routine situations and explain why something is a problem. Can express thoughts on more abstract, cultural topics such as films, books, music etc.
- b. Can exploit a wide range of simple language to deal with more situations likely to arise whilst travelling. Can enter unprepared into conversation of familiar topics, express personal opinions and exchange information on topics that are familiar, of personal interest or pertinent to everyday life (*e.g. family, hobbies, work, travel and current events*).

5.2.3 考 察

はじめに国の調査について報告書をもとに考察する。PART 1の音読は他の項目よりも得点を低くし重み付けを行なった上で、単独の能力として測定している。「コミュニケーション英語 I」には「聞き手に伝わるように音読する」とあり学習指導要領の内容に沿った出題である。一方、B1 Preliminaryは、‘Grammar and Vocabulary’ ‘Discourse management’ ‘Pronunciation’ ‘Interactive

Communication’ の4つの評価項目により総合的に評価しており、音読を「話す」能力として単独で測定していないことに留意する必要がある。

PART Bに関する質問紙調査では「与えられた話題について、(特に準備することなく)即興で話す活動をしていたと思いますか」について、3分の2程度の生徒は高校3年間を通して、授業でこのような活動を十分に経験していないという結果となっている。またPART Cは社会的な問題について事実と個人の考えを区別しながら論理的に述べるができるかどうかを測定する設問としてCEFR A2上位からB1を測定するタスクとなっており、報告書では「難易度の高い設問であったにもかかわらず、意見と理由を簡単に述べることができていた」とする一方、「意見と理由の関連付けが弱く、論理的な説得力に欠けているケースが目立つ」としている。テーマは“Teacher should speak only English in English class.”で報告書では「生徒にとって比較的身近な内容である」としているが、cohesive devicesやdiscourse markersを活用し論拠を述べることは、主に高等学校の英語表現II等で取り扱う言語活動であり、質問紙調査の「ディベートやディスカッションをしていたと思いますか」に対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答が全体でも23.5%であったことを考えると、設定レベル以上の困難さを感じた生徒も多かったと推察される。

次にB1 Preliminaryについて考察する。「話す」の出題構成は前述の通りであり‘can communicate’ ‘can exchange’ ‘can enter unprepared into conversation’ など、対話を前提としたCEFRの「話す」の能力記述文に沿ったテスト形式となっている。また試験官2名、原則受験者2名で実施され、試験官と受験者、受験者間でのやりとりを測定することが大きな特徴になっているが、こうした形

式はペア・ワークなどを中心としたコミュニケーションを円滑にするための言語活動として中学校においても扱われており、さらに高等学校の「コミュニケーション英語Ⅰ」では「情報や考えなどについて話しあったり意見の交換をしたりする」活動として、高校の初期の段階で行われている。PART 3の絵の描写は「一枚の写真等に基づき簡単な発表を行う」など「英語表現Ⅰ」相当の言語活動であり、PART 2やPART 4のTASK FOCUSである suggestion, agreement, opinions, likes/dislikes, experiences, habits等を伝える課題についても、多くの学生が高校で経験したことのある身近な内容となっている。このようにB1 Preliminaryのテスト形式は学生がこれまで受けてきたなじみのあるものである。

なお、B1 Preliminaryでは受験者が「書く」「話す」の能力を最大限に発揮しB1レベルを適切に測定できるよう工夫されており、例えば指示文や問題文は平易である。こうしたCambridge Englishのテスト仕様は統合型の問題を作成する際の指針となるばかりでなく、学習指導や学習評価を考える上で参考になる。

最後に、本研究とは直接関係はないが、B1 Preliminaryの試験官になるためにはCEFR C1の英語力が求められ、1日半の研修及び審査を受ける必要がある。国の調査は調査実施校の英語担当教員が担当して研修（送付された研修資料を使った事前研修）を受けた上で実施しているが、Alderson (1995)は‘The training of examiners is a crucial of any testing.’と言及しており、採点の信頼性の観点からも試験官の研修の重要性について指摘しておく。

6. おわりに

1年生全員にケンブリッジ英検を実施したことによりCEFRに基づく本学科入学時点で

の学習者全体の英語力が初めて明らかとなったことは本研究の成果である。しかし1年生6月時点で約14%の学生がCEFR B1レベルであり、本学科の卒業時の到達目標として設定を検討している「60%以上の学生がB1レベル」が実現可能性のある妥当な目標であるか、2年次の結果を踏まえ検証を進める必要がある。

また今回の研究では発信型技能が高いという白鳥(2017)の調査と同様の結果が得られたが、テスト結果の一層の分析を通して4技能を総合的に育成するための学生への効果的なフィードバック、カリキュラムの改定、教科書の選定を行うとともに、指導法の改善・充実を図ることは学生に対してのわれわれの責務である。

「英語教育改善のための英語力調査」は国による初めての4技能テストであり、CEFRを参照し世界基準に基づいて日本の高校生の英語力が測定されたことは、英語教育の歴史においても意義が大きい。

しかし、国の調査とB1 Preliminaryを比較した今回の研究では、テスト結果に影響を与えたと考えられる様々な要因が明らかとなり、テストの仕様により技能別の特徴等に差を生じることが示唆された。国の調査は次期学習指導要領改訂に影響を及ぼすなど、民間の言語テストよりも波及性ははるかに大きい。野口他(2014)は大規模言語テストの透明性・公開性の重要性を指摘しているが、国の調査にはCEFRとの関係を含め、今後、より詳細な情報の提供を期待したい。

ただし、The Council of Europe (2009)は言語テストをCEFRへ関連付ける際に、Familiarization (CEFRに対する習熟)、Specification (整合性評価)、Standardization (判断の標準化)、Empirical Validation (経験的妥当性)の4つの手続きを経ることを要請しており、言語テストとCEFRの関連付けは大変困難な作業であることは付け加える必要がある。

〔謝 辞〕

本研究は2017年度北星学園大学特定研究費の助成を受けたものである。

吉島茂・大橋理枝（他）訳・編（2004）.『外国語教育Ⅱ-外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』東京：朝日出版社.

〔参考文献〕

- Alderson, J.C. Clapham, C., & Wall, D. (1995). *Language test construction and evaluation*. Cambridge: CUP
- Cambridge English (2016). *Preliminary Handbook for teachers for exams from 2016*. Cambridge: Cambridge ENGLISH Language Assessment.
- Cambridge English (2015). *First Handbook for teachers for exams from 2015*. Cambridge: Cambridge ENGLISH Language Assessment.
- Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Language: Learning, Teaching, Assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Council of Europe (2009). *Relating Language Examinations to the Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment (CEFR)*.
<https://rm.coe.int/1680667a2d>
- 石川祥一・西田正・斉田智里編（2011）.『英語教育学大系第13章テストと評価』東京：大修館書店.
- 文部科学省（2010）.『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』東京：開隆堂.
- 文部科学省.（2016）.「平成27年度英語教育実改善のための英語力調査事業（高等学校）報告書」状況調査
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/12/16/1375533_1/pdf
- マクナマラ, T. (著), 伊東祐郎, 三枝令子, 島田めぐみ, 野口裕之 (監訳) (2004).『言語テスト概論』東京：スリーエーネットワーク.
- 野口裕之・大隅敦子（2014）.『テストの基礎理論』東京：研究社.
- 投野由紀夫（編）(2013).『英語到達度指標 CEFR-Jガイドブック』東京：大修館書店.
- 白鳥金吾（2017）.「ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）による日本人英語学習者の英語力及び技能別の特徴に関する研究」『北星学園大学短期大学部北星論集』第15号, 1-9.